

大会名	種目	成績
県西ブロック中学春季大会 (4/14・4/21)	男子団体	優勝 鴨宮中学 (遠藤・篠崎・竹松・沖・高橋・川久保)
	女子団体	優勝 鴨宮中学 (スコット・武藤・本多・宮城・北川・宮本)
	男子新人の部	優勝 遠藤駿 準優勝川久保充希 3位竹松開人・沖裕介
	女子新人の部	優勝 宮本光里 準優勝スコット芽唯 3位武藤由莉・本多優奈
上郡・南足柄ランキング大会 (4/28)	2年男子の部	優勝 高橋稜央 準優勝井上来夢
	男子個人	優勝 矢後奏音
小田原地区ランキング大会 (4/29)	女子個人	優勝 合田菜桜
	男子個人	① 遠藤 ②沖 ③川久保 ④篠崎 ⑤高橋せ ⑥竹松 ⑦高橋り ⑧金子
	女子個人	① 宮本 ②本多 ③スコット ④武藤 ⑥宮城 ⑧北川

県西ブロック中学校春季大会個人戦

男子は実力伯仲でフルセットの好ゲームの連続でした。そして、最近の課題練習の成果が出て内容の良い試合が多くありました。特に遠藤君のバックドライブ、川久保君のフォアドライブ、沖君の前陣プレー、竹松君のバックハンド、矢後君の表を生かしたプレーなど確実にレベルアップしています。今後も自分の課題を明確にして努力を続けることが重要です。大会毎に順位が変わる展開は夏の総体まで続きます。

女子も着実に上達しており接戦が多くありました。特に決勝の宮本対スコット戦は素晴らしい試合でした。スコットさんが2セット先取り勝利目前で逆転されましたが、バックドライブとブロックの成長が表れた試合でした。また、宮本さんの苦しい試合でも冷静なプレーと3セット目以降の積極的なプレーが成長の証です。その他にも準々決勝前後から接戦や逆転の試合が多くありました。男子2年生は高橋君が優勝、井上君の準優勝は立派な成績です。



遠藤駿 川久保充希 竹松開人 沖裕介



宮本光里 スコット芽唯 武藤由莉 本多優奈



高橋稜央 井上来夢

山中湖合宿

3月31～4月2日、好天に恵まれた山中湖で、小中学生40名余りが参加して合宿を行いました。合宿は「やらされ練習」ではなく、それぞれ自分の課題に挑戦するのがたなかクラブの特徴です。このため自分で成長が確認できるので一生懸命練習します。そしてその成果は今後の試合で必ず表れます。



県西ブロック中学団体戦・男女とも鴨宮中学が優勝

鴨宮中男子は春の関東選抜で3位入賞と言う輝かしい成績を残しました。しかし県内では負けています。選手はごることなく、我がままにならずに、チーム一丸となって「県総体優勝」の大きな目標に向かって頑張ろう！

宮本さん以外は中学に入って卓球を始めたメンバーです。皆さん全員真面目に練習するので着実に上達しています。今年は春の関東選抜でベスト8の好成績を残しましたが、油断せず、夏の総体で5年連続関東大会出場を目指して頑張ろう！



川口コーチ 高橋せ 川久保 竹松 遠藤 永森
高橋り 府川 篠崎 沖

宮城 宮本 岡
武藤 本多 スコット 北川

上南地区ランキング大会 男子矢後・女子合田が優勝

足柄上郡、南足柄地区大会で男子は矢後奏音（南足柄中3年）君、女子は合田菜桜（南足柄中3年）さんが優勝しました。矢後君はバック面を表ソフトに替えて速攻とナックルのバックが一段と向上しました。合田さんはサーブが良くなったことと、強打で点が取れるようになったので得点力がUPしました。



矢後奏音



合田菜桜

ランキング大会成績と県大会・関東大会

各地区で行なわれるランキング大会の成績は夏の総体の組合せに反映されます。但し、これは所属する学校のシード権であり、学校内の成績によってシードの位置が変わります。

7月に行われる中学校総体は、地区大会の成績で県西ブロック大会の組み合わせが決まり、県西大会の成績で県大会の組み合わせが決まります。

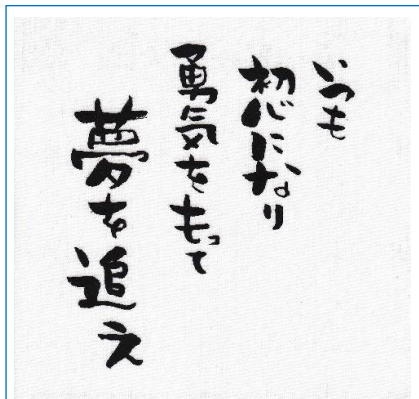
今年は関東大会が神奈川県相模原市で開催されます。通常は県代表は団体戦4チーム、個人戦14名ですが、地元開催で出場枠が増えて、団体戦5チーム、個人戦16名が出場できます。

女子の名門横浜隼人には昨年全国大会に出場して推薦出場の人もあります。その人達は予選に出ないのでチャンスがあります。

総体まで残り約2ヶ月となりました。自分の課題に真剣に取り組み、男女団体に加えてシングルスでも関東大会を目指して頑張ろう！

新吸着シート発売

新オリジナル吸着シート発売！
約2500枚販売している人気の「卓球バカ・・・」の吸着シートに続き、第2弾として下記商品が追加されます。
どちらも自著の表紙をモチーフにしたものです。皆さんご利用ください。



「卓球レポート」廃刊

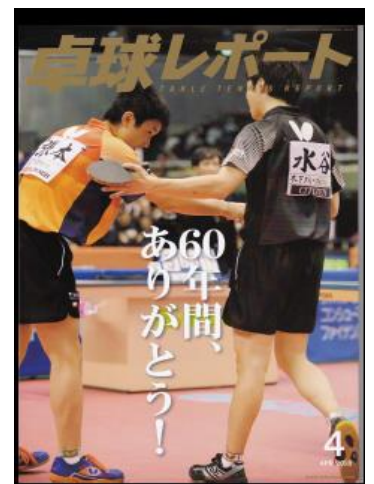
卓球用品のバタフライ社が60年間発行してきた月刊卓球雑誌「卓球レポート」が平成30年4月号を持って廃刊となりました。

私が15歳で本格的に卓球を始めた時に教科書としたのが、当時発刊間も無い「卓球レポート」でした。以来58年間一度も欠かさず読み続けてきました。

当時、卓球の世界を全く知らない田舎者がこの本から実にたくさんを学びました。

現在はDVDやテレビなどで技術を詳細に知ることが出来ますが、当時は卓球レポートの活字と連続写真が唯一の情報源でした。初代バタフライ社長、田舛彦介氏の「選手を花にたとえるなら私たちは花に仕える蝶でありたい」の言葉が大好きです。バタフライの蝶のマークはその気持ちを表しています。

彼の卓球普及に賭けた情熱が日本の卓球界発展に大きく貢献しました。



最後となった平成30年4月号
新旧エース交代となった今年の全日本決勝の感動的な瞬間が表紙となっている。